

岡山県感染症週報 2026年第1週 (12月29日～1月4日)

岡山県は『インフルエンザ警報』を発令中です

岡山県は『食中毒(ノロウイルス)注意報』を発令中です

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令中です

◆2026年 第1週（12/29～1/4）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況（第1週届出分）

第51週 5類感染症 百日咳 1名（小学生 女）
 第52週 2類感染症 結核 1名（20代 男）
 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名（O157：中学生 女）
 5類感染症 梅毒 1名（60代 男）
 百日咳 7名（幼児 男1、小学生 女2、30代 女2、40代 男1、60代 女1）
 第1週 4類感染症 レジオネラ症 1名（70代 男）
 5類感染症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 1名（90代 男）
 梅毒 1名（30代 女）
 百日咳 2名（乳児 女1、20代 男1）

効果的な場面でのマスク着用！



© 岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：ARI定点50、小児科定点28、眼科定点12、STD定点18、基幹定点5

○インフルエンザは、県全体で539名（定点あたり10.78人）の報告がありました。

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で32名（定点あたり0.64人）の報告がありました。

○急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で1,316名（定点あたり26.32人）の報告がありました。

1. インフルエンザは、県全体で539名の報告があり、前週から減少しました（定点あたり30.10 → 10.78人）。岡山県は11月28日に『インフルエンザ警報』を発令し、広く注意を呼びかけています。詳しくは、「インフルエンザ週報」および岡山県感染症情報センターホームページ『2025/26年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ警報」発令中！』をご覧ください。
2. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で32名の報告があり、前週から減少しました（定点あたり0.92 → 0.64人）。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報』をご覧ください。
3. 急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で1,316名の報告があり、前週から減少しました（定点あたり77.64 → 26.32人）。詳しくは、「☆急性呼吸器感染症（ARI）情報」および岡山県感染症情報センターホームページ『急性呼吸器感染症（ARI）情報』をご覧ください。
4. 梅毒は、2026年第1週に1名の報告がありました（2025年の年間報告数は252名（2026年1月8日現在）、2025年の同時期：1名）。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『梅毒について』をご覧ください。
5. 感染性胃腸炎は、県全体で46名の報告があり、前週から減少しました（定点あたり2.96 → 1.64人）。地域別では、美作地域（5.33人）、倉敷市（3.14人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山県は『食中毒（ノロウイルス）注意報』を発令し、食中毒予防を呼びかけています。冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底、食品の十分な加熱、おう吐物・下痢便の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めましょう。県内の発生状況など、詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ『2025/26年 感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
6. 伝染性紅斑は、県全体で8名の報告があり、前週から減少しました（定点あたり1.11 → 0.29人）。詳しくは「今週の注目感染症」をご覧ください。

流行の推移

疾病名	定点あたり 報告数		推移	疾病名	定点あたり 報告数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	30.10	10.78	▼	突発性発しん	0.29	0.07	▼
COVID-19	0.92	0.64	▼	ヘルパンギーナ	0.04	0.00	▼
急性呼吸器感染症(ARI)	77.64	26.32	▼	流行性耳下腺炎	0.04	0.11	↑
RSウイルス感染症	0.71	0.14	▼	急性出血性結膜炎	0.00	0.00	→
咽頭結膜熱	0.21	0.04	▼	流行性角結膜炎	0.08	0.00	▼
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.18	0.46	▼	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
感染性胃腸炎	2.96	1.64	▼	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
水痘	0.14	0.04	▼	マイコプラズマ肺炎	1.20	0.60	▼
手足口病	0.00	0.04	↑	クラミジア肺炎	0.00	0.00	→
伝染性紅斑	1.11	0.29	▼	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	→

【記号の説明】 前週からの推移

↑ : 増加

■ : ほぼ増減なし

▼ : 減少

増加・減少 : 前週比10%以上の増減

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令中です！

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10°C以下で保存しましょう。
(生食用鮮魚介類は、4°C以下で保存するよう努めましょう。)



0157 の電子顕微鏡画像
(国立健康危機管理研究機構)

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるものまで十分に火を通し、
生食は避けましょう（腸管出血性大腸菌は、75°C、1分間以上
の加熱で死滅します）。

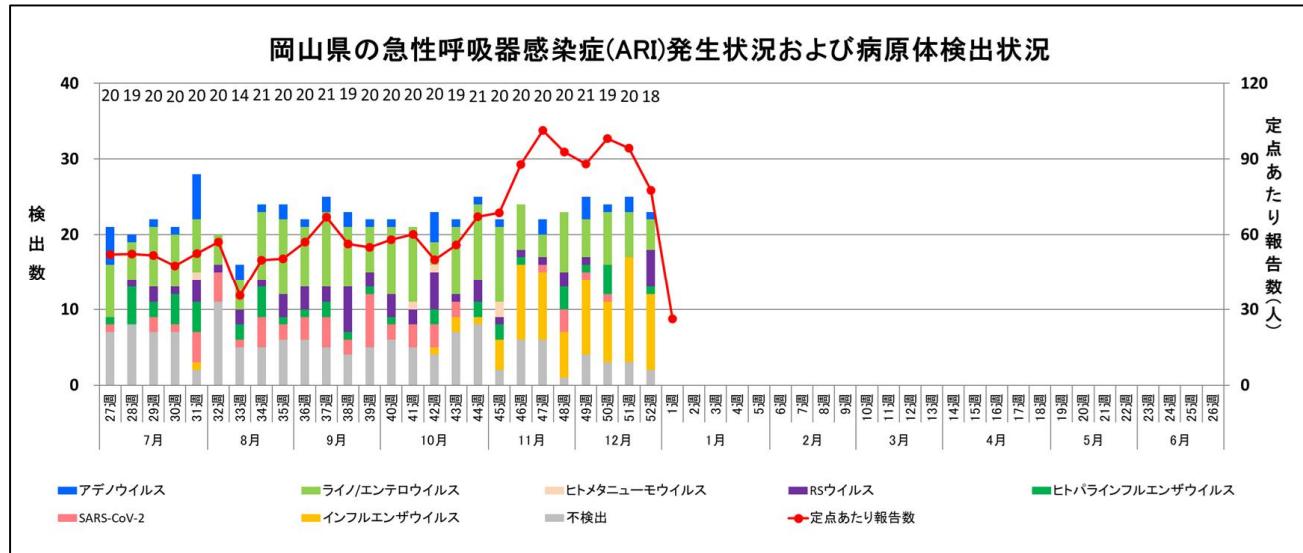
[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省作成チラシ）](#)

★急性呼吸器感染症（ARI）情報

1. 岡山県の流行状況（第1週（12/29～1/4））



※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。

※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。

※グラフ上部の数字は検体数を示しています。

※急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関数：50 医療機関（内科定点 22、小児科定点 28）

※急性呼吸器感染症（ARI）病原体定点医療機関数：5 医療機関（内科定点 2、小児科定点 3）

急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で1,316名の報告があり、前週から減少しました（定点あたり77.64→26.32人）。地域別では、倉敷市（58.83人）、備前地域（27.25人）、備中地域（27.20人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。

2026年第1週に環境保健センターに搬入された検体はありませんでした。

2. 新型コロナウイルスゲノム解析結果

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ [新型コロナウイルスのゲノム解析（岡山県感染症情報センター）](#)

○全国の状況

→ [SARS-CoV-2 変異株について（国立健康危機管理研究機構）](#)

今週の注目感染症

★伝染性紅斑

●感染経路および症状

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性発しん性疾患です。両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれます。感染経路は患者の咳などによる飛沫感染や接触感染です。

約10~20日の潜伏期間の後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がります。多くの場合、頬に発しんが出現する7~10日くらい前に、微熱や風邪の症状などが見られ、この時期にウイルスの排出が最も多くなりますが、発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。その後これらの発しんは一週間程度で消失しますが、中には長引いたり、発しんが再び出現することがあります。

成人では関節痛を伴う関節炎や頭痛などの症状が見られることもありますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然治癒します。

[伝染性紅斑（厚生労働省）](#)

[伝染性紅斑（国立健康危機管理研究機構）](#)

●治療・予防方法

伝染性紅斑には特別な治療法はなく、対症療法が行われます。

ヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出ている時期にはほとんど排出されていません。そのため、予防法は初期症状である風邪症状がある方との接触を避ける、うがいや手洗い、手指の消毒を行うなどです。風邪症状のある人は『咳エチケット』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。

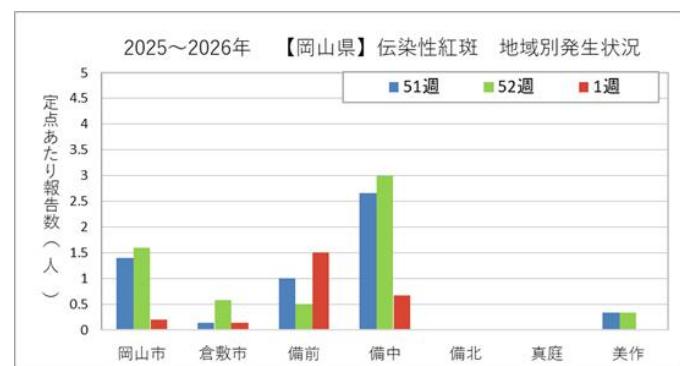
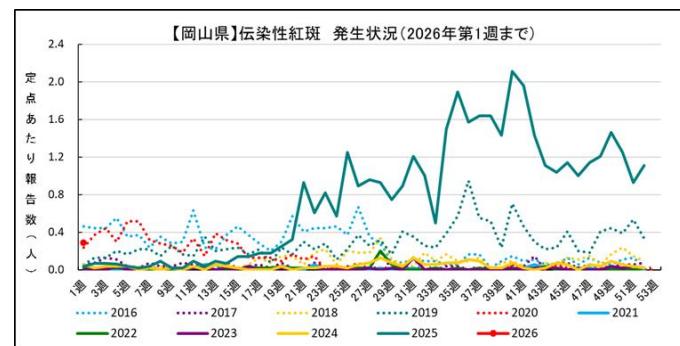
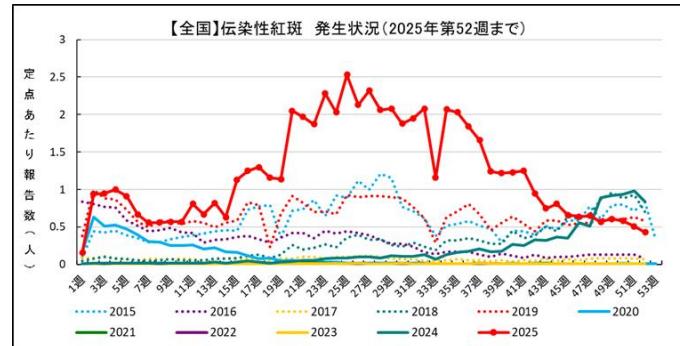
●妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまでヒトパルボウイルスB19に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出る等、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は医療機関に相談しましょう。また、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、症状がない場合も妊婦検診の際に医師に伝えてください。

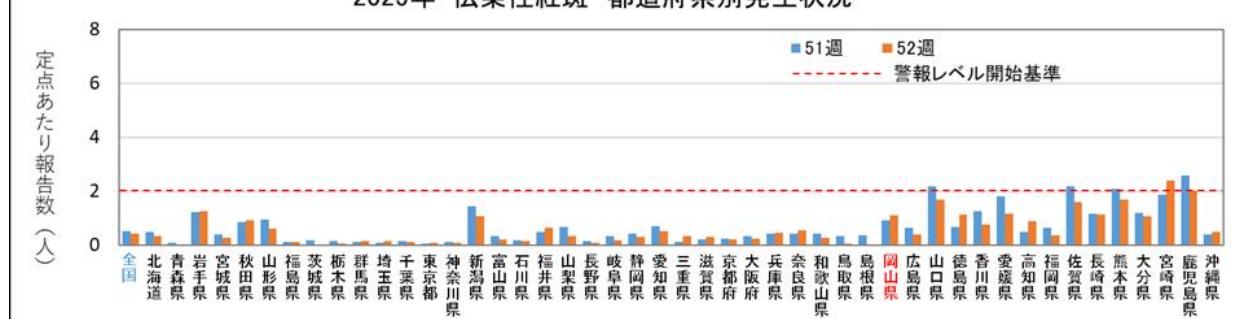
●発生状況

全国の第52週の定点あたり報告数は第51週から減少しました（0.51→0.43人）。都道府県別では、宮崎県（2.40人）、鹿児島県（2.03人）、熊本県（1.69人）の順に定点あたり報告数が多く、2県で警報レベルの2.00人を超えています。

岡山県の第1週の定点あたり報告数は前週から減少しました（1.11→0.29人）。地域別では、備前地域（1.50人）、備中地域（0.67人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。



2025年 伝染性紅斑 都道府県別発生状況



◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に 気をつけましょう ◆◆

<予防方法>

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。



2. 段理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

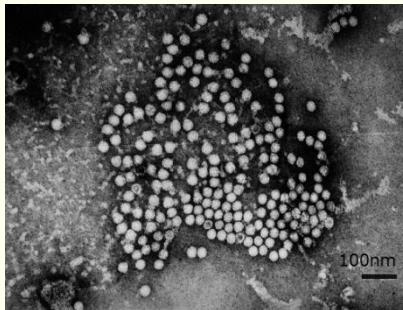
おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。これらを段理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、ペーパータオルなどで静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、段理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水段理または**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、熱水段理または次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心部を85~90℃で90秒間以上)

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかりと加熱すれば安心です。



※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。
また、アルコールの効果は低いとされています。

●ノロウイルスに関するQ&A (厚生労働省)

ノロウイルスの電子顕微鏡写真
岡山県環境保健センター ウイルス科 撮影

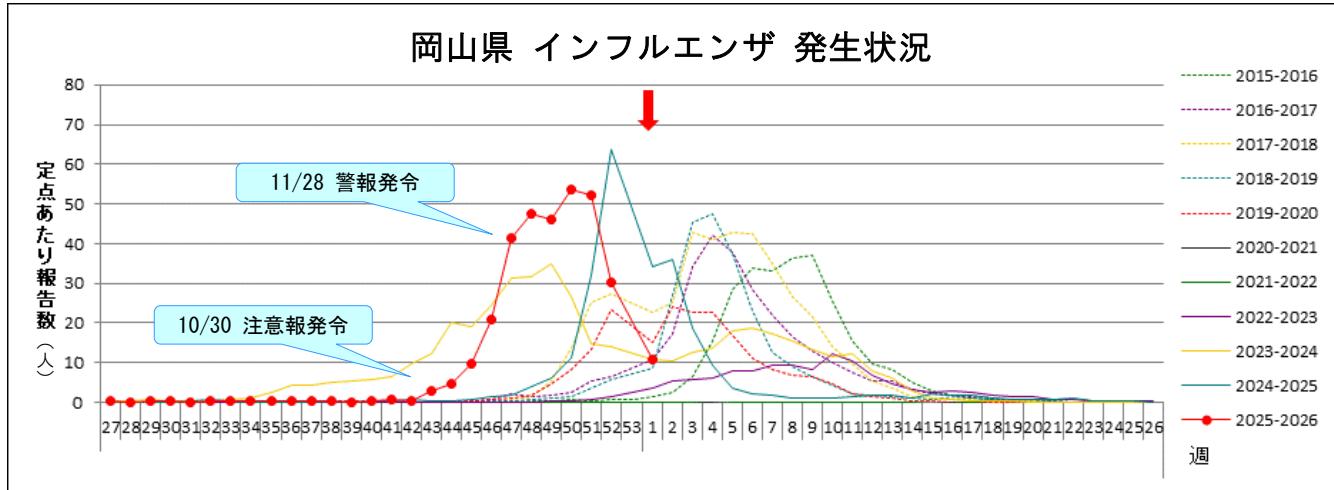


インフルエンザ週報 2026年 第1週 (12月29日～1月4日)

岡山県は『インフルエンザ警報』を発令中です

岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で539名（定点あたり10.78人）の報告がありました（50定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者19名の報告がありました。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

※2025年第15週以降定点がインフルエンザ/COVID-19定点（84医療機関）からARI定点（50医療機関）になりました。

インフルエンザは、県全体で539名の報告があり、前週から減少しました（定点あたり30.10→10.78人）。

岡山県は11月28日に『インフルエンザ警報』を発令し、広く注意を呼びかけています。

地域別では、倉敷市（23.67人）、美作地域（12.80人）、備前地域（11.75人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

県内の発生状況に注意するとともに、基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。

◆インフルエンザが流行中です。感染に注意しましょう◆

【感染防止策の徹底】

- ・場面に応じたマスクの着用、手洗い、手指消毒の実施
- ・室内の適度な湿度の設定、定期的な空気の入れ替え
- ・高齢者や基礎疾患のある方などは、人混みを避ける
- ・十分な休養、バランスのとれた食事
- ・高齢者や基礎疾患がある方など重症化リスクが高い方で、予防接種がまだの方は接種を検討しましょう
(ワクチン接種により、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があります)

【発熱等の症状が出た時は】

- ・早めに医療機関を受診する
- ・周りの方へうつさないように「咳エチケット」を！
- ・水分を十分にとり、安静にして休養をとる
- ⇒ 詳細は岡山県ホームページ『[インフルエンザ対策について](#)』をご覧ください。

1. 地域別発生状況

地域名	発生状況(人)		推移	地域名	発生状況(人)		推移
岡山県全体	患者数	539	↑	備 中	患者数	41	↑
	定点あたり	10.78	↑		定点あたり	8.20	↑
岡山市	患者数	67	↑	備 北	患者数	14	↑
	定点あたり	3.72	↑		定点あたり	3.50	↑
倉敷市	患者数	284	↑	真 庭	患者数	22	↑
	定点あたり	23.67	↑		定点あたり	11.00	↑
備 前	患者数	47	↑	美 作	患者数	64	↑
	定点あたり	11.75	↑		定点あたり	12.80	↑

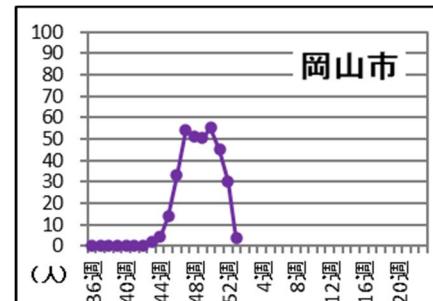
【記号の説明】前週からの推移
 ↑ : 大幅な増加 ▲ : 増加 ▶ : ほぼ増減なし ↓ : 減少 ▼ : 大幅な減少
 大幅 : 前週比 100%以上の増減 増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ

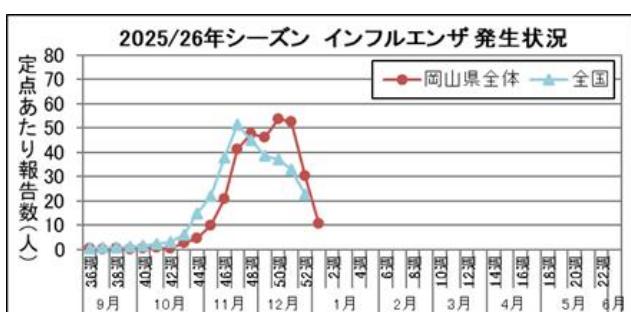
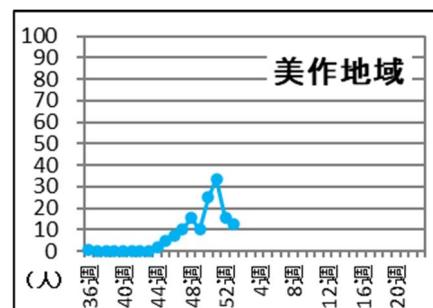
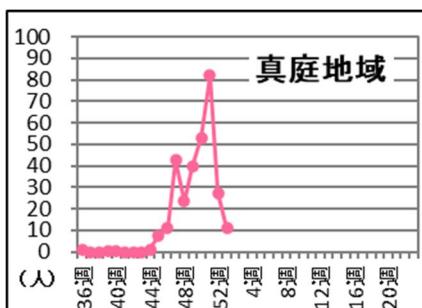
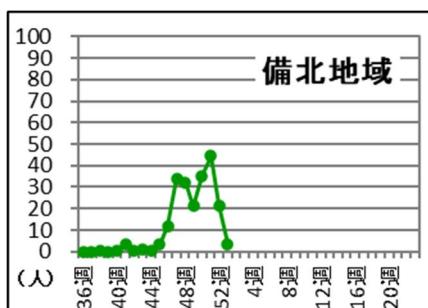
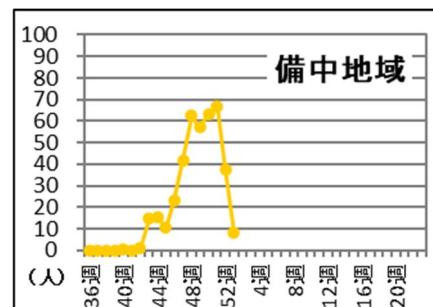
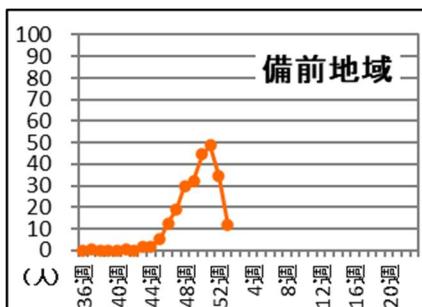
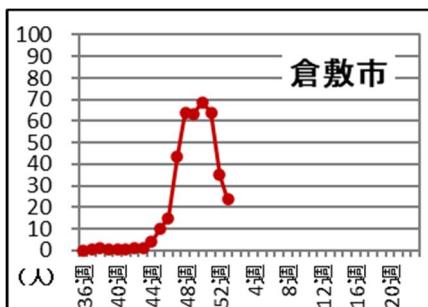


<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0< 10未満		0



※数字は定点あたり報告数

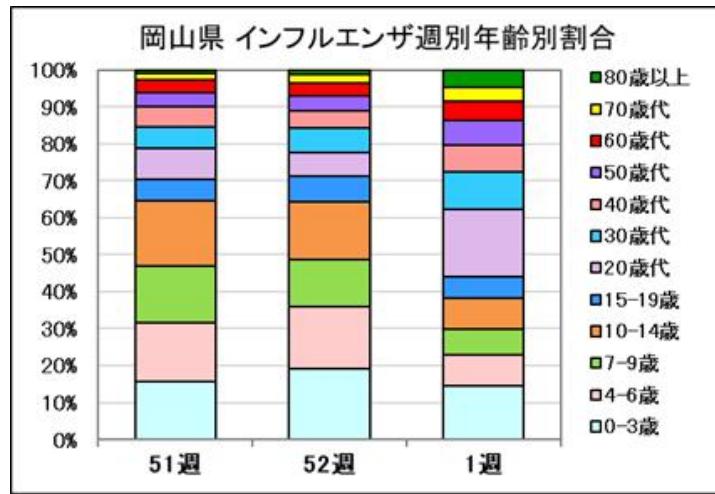
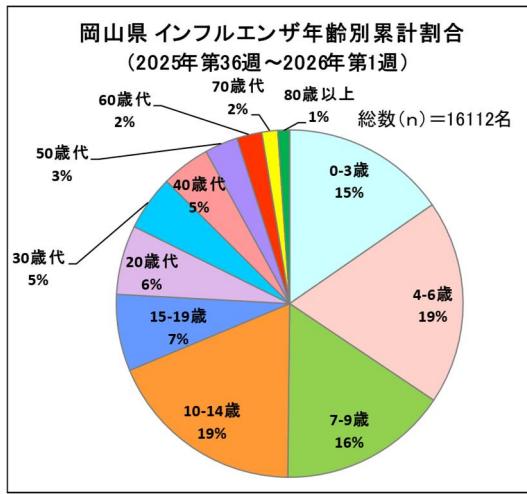


全国集計 2025年第52週(12/22～12/28)速報値によると、全国の定点あたり報告数は22.77人となりました。

都道府県別では、宮崎県(62.57人)、鹿児島県(48.00人)、佐賀県(39.88人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。46都道府県で前週の報告数から減少しました。

[インフルエンザの発生状況について\(厚生労働省\)](#)

2. 年齢別発生状況

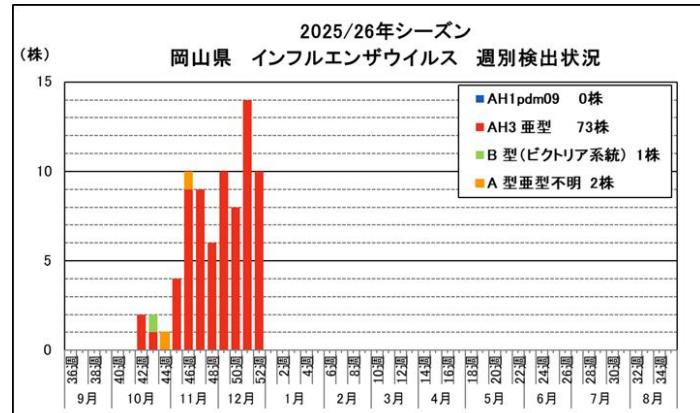
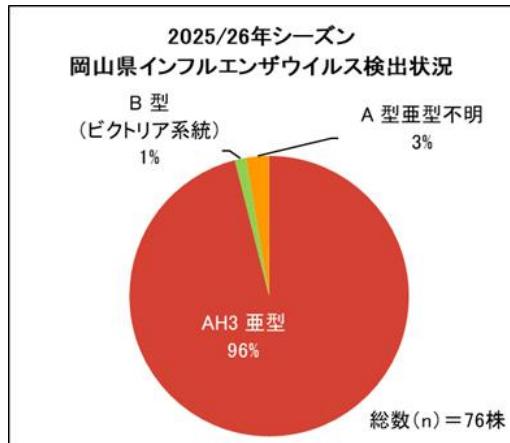


※定点医療機関は、小児科定点（28 医療機関）が内科定点（22 医療機関）に比べて多いため、報告数は小児に偏ります。

3. インフルエンザウイルス検出状況

【岡山県】

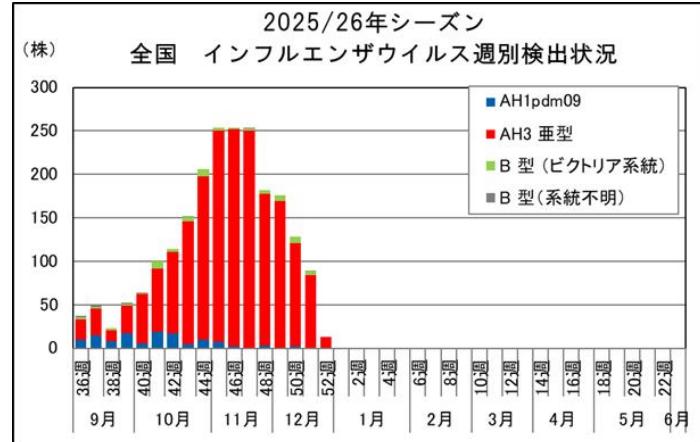
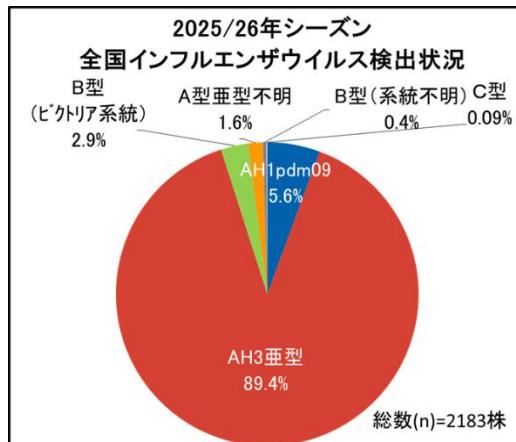
今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは 76 株で、AH3 亜型が 73 株、B 型（ビクトリア系統）が 1 株、A 型亜型不明が 2 株となっています。



【全国】

今シーズン、これまでに検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 が 123 株、AH3 亜型が 1,952 株、B 型（ビクトリア系統）が 64 株、A 型亜型不明が 34 株、B 型（系統不明）が 8 株、C 型が 2 株となっています（1月 8 日現在）。

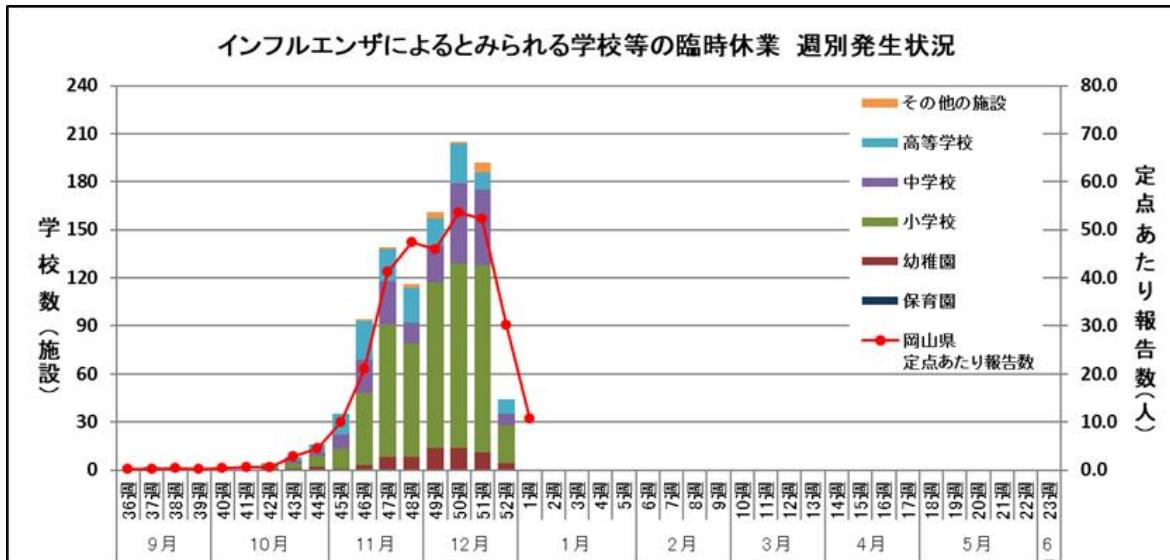
[インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立健康危機管理研究機構）](#)



※集計が異なるため一部の型が報告されていません。

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は、ありませんでした。



臨時休業施設数の内訳

	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
第1週	0	0	0	0	0	0	0
累計	0	67	584	201	150	15	1,017

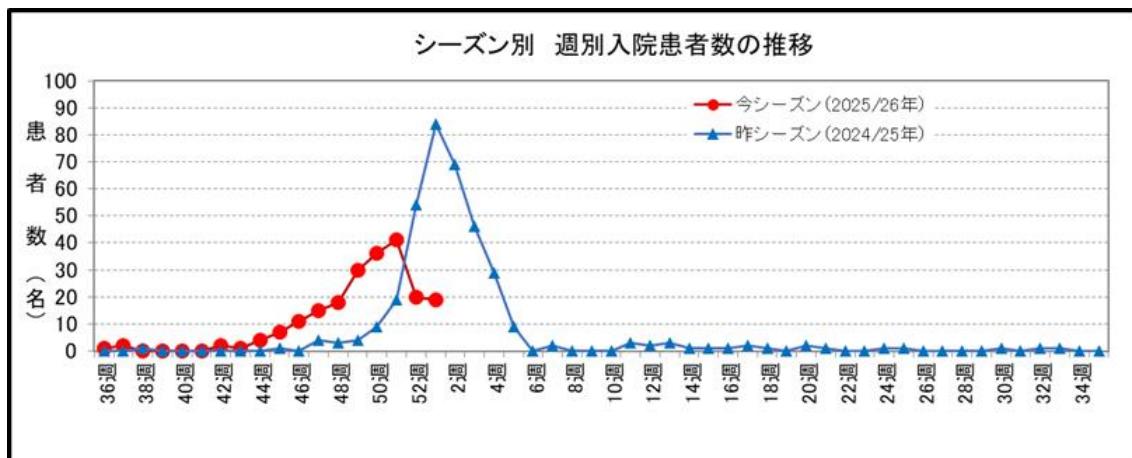
最新の臨時休業の情報については以下のホームページをご覧ください。

→ [\(R7年度シーズン\) 岡山県内の学校等におけるインフルエンザとみられる臨時休業](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、19名の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患有もつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずウトウトしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第1週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数			2					1	1	3	2	10	19
ICU 入室 *										1			1
人工呼吸器の利用 *												1	1
頭部 CT 検査(予定含) *								1		2	1	2	6
頭部 MRI 検査(予定含) *												1	1
脳波検査 (予定含) *													
いずれにも該当せず			2						1	1	1	7	12

* 重複あり

【2025年9月1日（第36週）以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	14	30	17	15	3	2	3	3	7	18	45	50	207
ICU 入室 *		1	1						1	1	7	2	13
人工呼吸器の利用 *			1			1			1		1	2	6
頭部 CT 検査(予定含) *		1						1		4	7	7	20
頭部 MRI 検査(予定含) *		8	3	2					1		1	3	18
脳波検査 (予定含) *		2							1				3
いずれにも該当せず	14	20	13	13	3	1	3	2	6	14	34	38	161

* 重複あり

[令和7年度 急性呼吸器感染症（ARI）総合対策に関するQ&A（厚生労働省）](#)

[令和7年度 今冬の急性呼吸器感染症（ARI）総合対策（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2026年第1週(定点把握)

(2025/12/29～2026/1/4)

2026年1月9日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	539	10.78	67	3.72	284	23.67	47	11.75	41	8.20	14	3.50	22	11.00	64	12.80
COVID-19	32	0.64	4	0.22	13	1.08	7	1.75	3	0.60	2	0.50	1	0.50	2	0.40
急性呼吸器感染症	1316	26.32	207	11.50	706	58.83	109	27.25	136	27.20	64	16.00	50	25.00	44	8.80
RSウイルス感染症	4	0.14	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—	—	—	3	1.00
咽頭結膜熱	1	0.04	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	0.46	5	0.50	4	0.57	—	—	2	0.67	1	0.50	—	—	1	0.33
感染性胃腸炎	46	1.64	5	0.50	22	3.14	2	1.00	—	—	1	0.50	—	—	16	5.33
水痘	1	0.04	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
手足口病	1	0.04	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	8	0.29	2	0.20	1	0.14	3	1.50	2	0.67	—	—	—	—	—	—
突発性発しん	2	0.07	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	3	0.11	—	—	2	0.29	—	—	1	0.33	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	3	0.60	—	—	3	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2026年第1週(発生レベル設定疾患)

(2025/12/29～2026/1/4)

2026年1月9日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	539	10.78	67	3.72	284	23.67	47	11.75	41	8.20	14	3.50	22	11.00	64	12.80
咽頭結膜熱	1	0.04	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	0.46	5	0.50	4	0.57	—	—	2	0.67	1	0.50	—	—	1	0.33
感染性胃腸炎	46	1.64	5	0.50	22	3.14	2	1.00	—	—	1	0.50	—	—	16	5.33
水痘	1	0.04	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
手足口病	1	0.04	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	8	0.29	2	0.20	1	0.14	3	1.50	2	0.67	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	3	0.11	—	—	2	0.29	—	—	1	0.33	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
 薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2026年 第1週 2025/12/29～2026/1/4)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	539	5	10	25	17	21	12	17	16	12	14	12	45	31	99	54	40	35	29	19	26
COVID-19	32	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	6	2	6	5	4	3
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～								
急性呼吸器感染症	1316	71	375	217	105	46	115	92	65	68	64	49	49								
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～						
RSウイルス感染症	4	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	-	-	-	3	-	2	1	2	3	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	46	1	6	3	7	6	2	4	1	2	2	1	9	-	2						
水痘	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	8	-	-	-	1	-	1	1	1	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～				
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	3	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

保健所別

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
急性呼吸器感染症(ARI)	1,316	26.32	207	11.50	706	58.83	109	27.25	136	27.20	64	16.00	50	25.00	44	8.80

(- : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-12ヶ月	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~		
	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数
急性呼吸器感染症(ARI)	1,316	71	375	217	105	46	115	92	65	68	64	49	49		

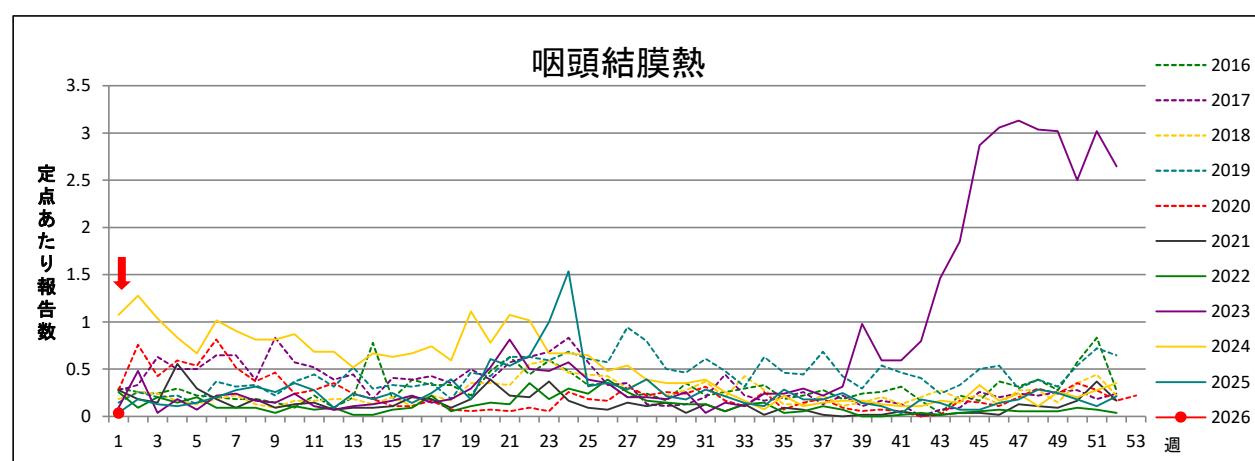
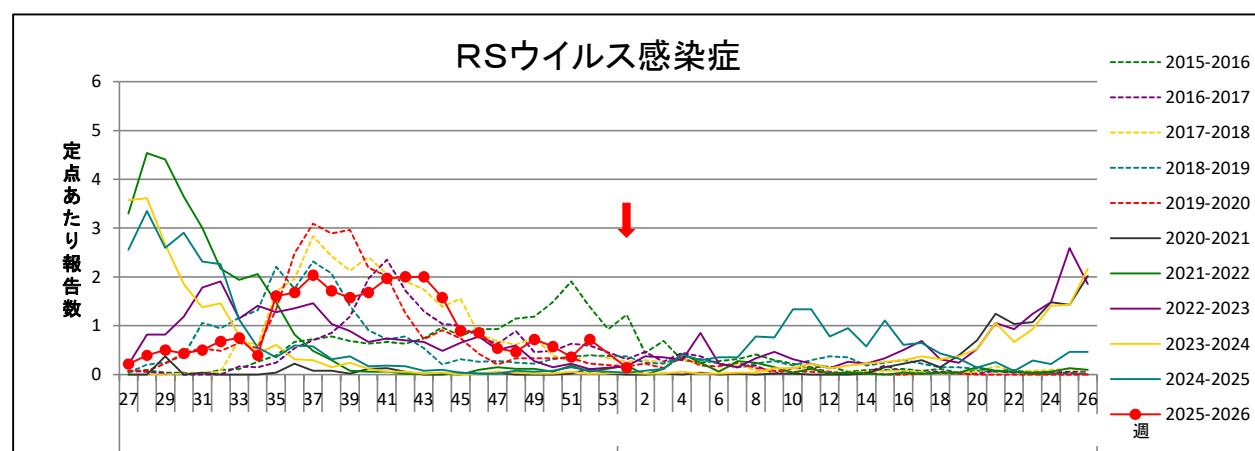
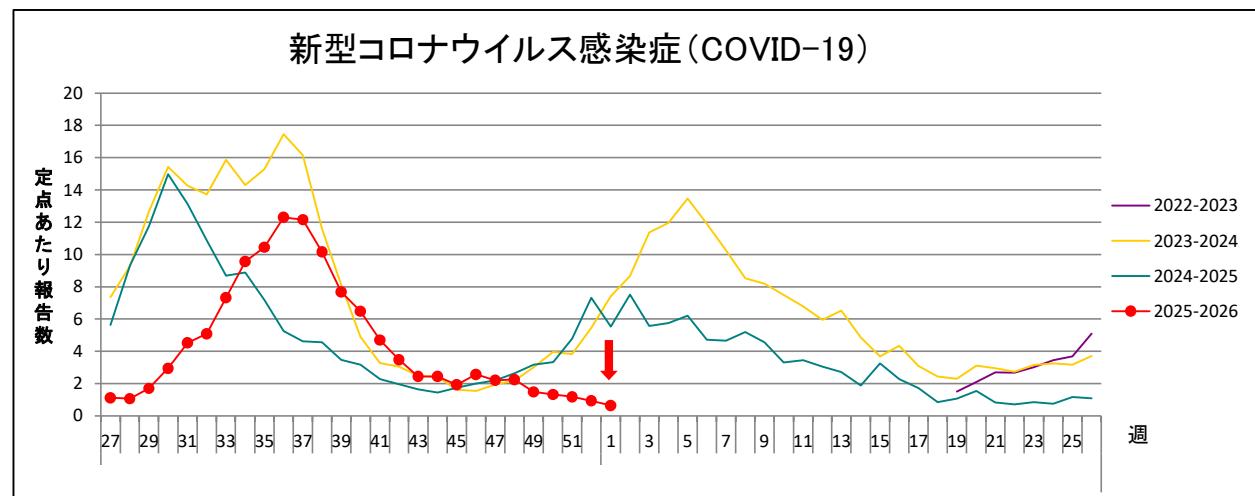
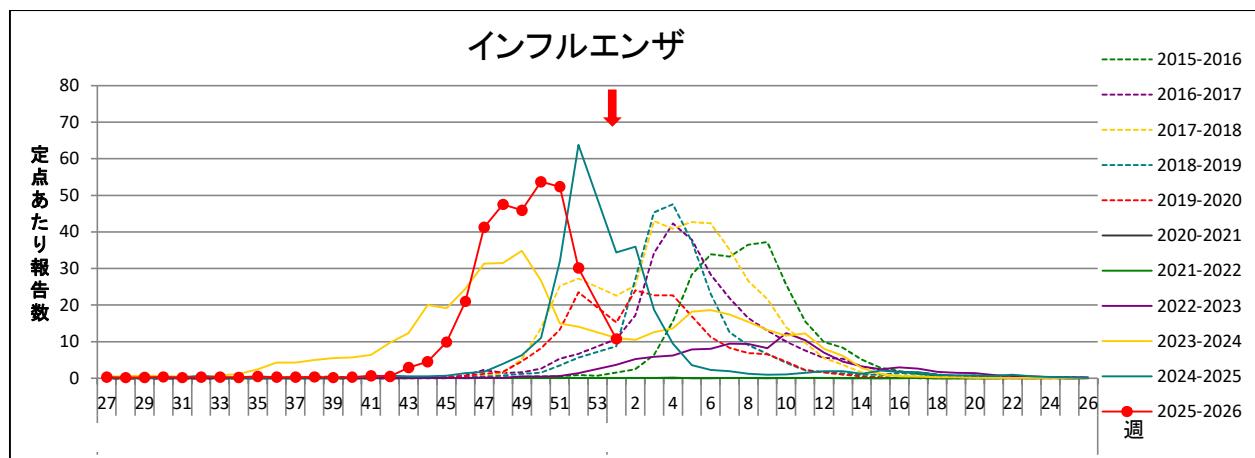
(- : 0)



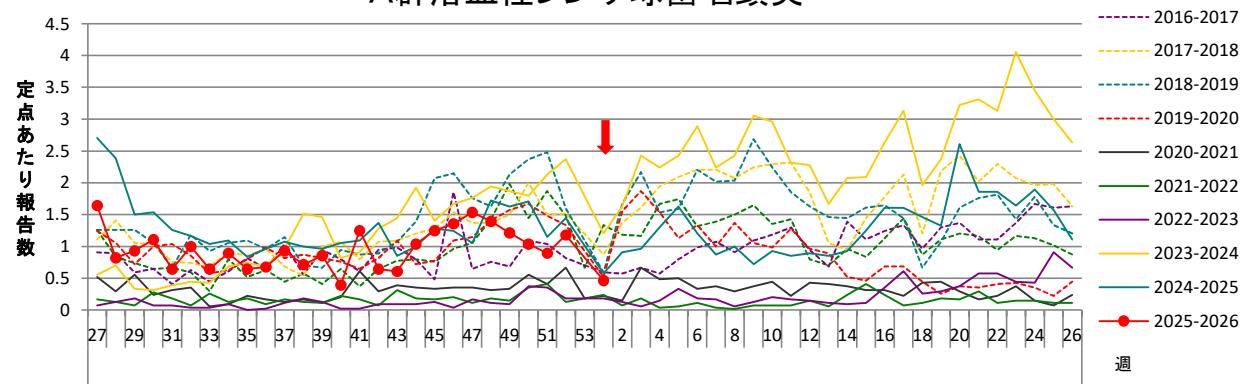
全数把握 感染症患者発生状況

2026 年 1 週

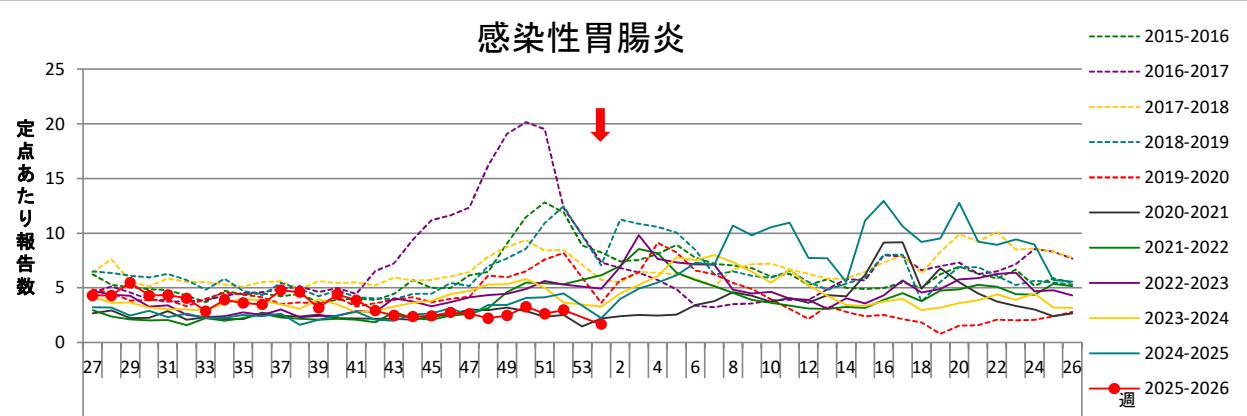
分類	疾病名	2026			2025			疾病名	2026			2025			疾病名	2026			2025		
		今週	累計	昨年	今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト	-	-	-	痘そう マールブルグ病	-	-	-	ジフテリア 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	95	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核 中東呼吸器症候群	-	-	233	ジフテリア 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	95	-	-	-		-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢 パラチフス	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	-	-	95	-	-	-		-	-	-	
	腸チフス	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	-	4	ウエストナイル熱 エムポックス オムスク出血熱 Q熱 ジカウイルス感染症 西部ウマ脳炎 チクングニア熱 東部ウマ脳炎 日本紅斑熱 Bウイルス病 ベネズエラウマ脳炎 ボツリヌス症 ライム病 類鼻疽 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	A型肝炎 黄熱 回帰熱 狂犬病 重症熱性血小板減少症候群 ダニ媒介脳炎 つつが虫病 鳥インフルエンザ 日本脳炎 鼻疽 ヘンドラウイルス感染症 マラリア リッサウイルス感染症 レジオネラ症	-	-	-	2 - - - - - - - - - - - - - - - - - 56	-	-	-					
	エキノコックス症	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	オウム病	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	キャサヌル森林病	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	コクシジオイデス症	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	8		
	腎症候性出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	炭疽	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	デング熱	-	-	1		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	ニパウイルス感染症	-	-	-		-	-	19		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	ブルセラ症	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	発しんチフス	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	野兎病	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	リフトバレー熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	1	1	56		
	レプトスピラ症	-	-	1		-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
五類	アメーバ赤痢	-	-	8	ウイルス性肝炎 急性脳炎 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 水痘(入院例に限る。) 播種性クリプトコックス症 パンコマイシン耐性腸球菌感染症 麻しん	-	-	2	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 クリプトスポリジウム症 後天性免疫不全症候群 侵襲性髄膜炎菌感染症 先天性風しん症候群 破傷風 百日咳 薬剤耐性アシнетバクター感染症	-	-	20		-	-	-	-	-	-		
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	2		-	-	14		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1		-	-	21		-	-	-		-	-	-	-	-	9		
	ジアルジア症	-	-	-		-	-	9		-	-	-		-	-	-	-	-	1		
	侵襲性肺炎球菌感染症	-	-	55		-	-	6		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	梅毒	1	1	252		-	-	3		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-		-	-	-	2	2	2,144		
	風しん	-	-	-		-	-	5		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
						-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-		



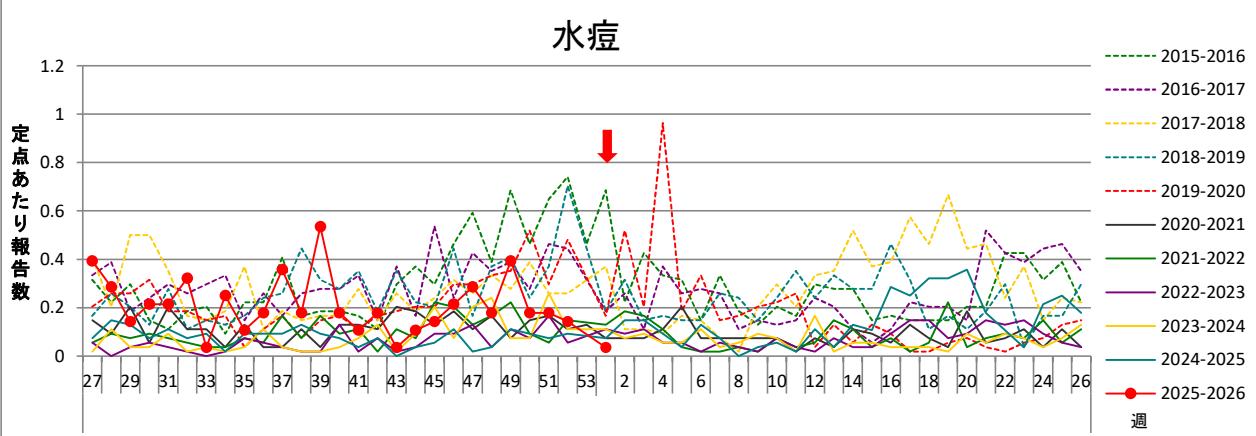
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



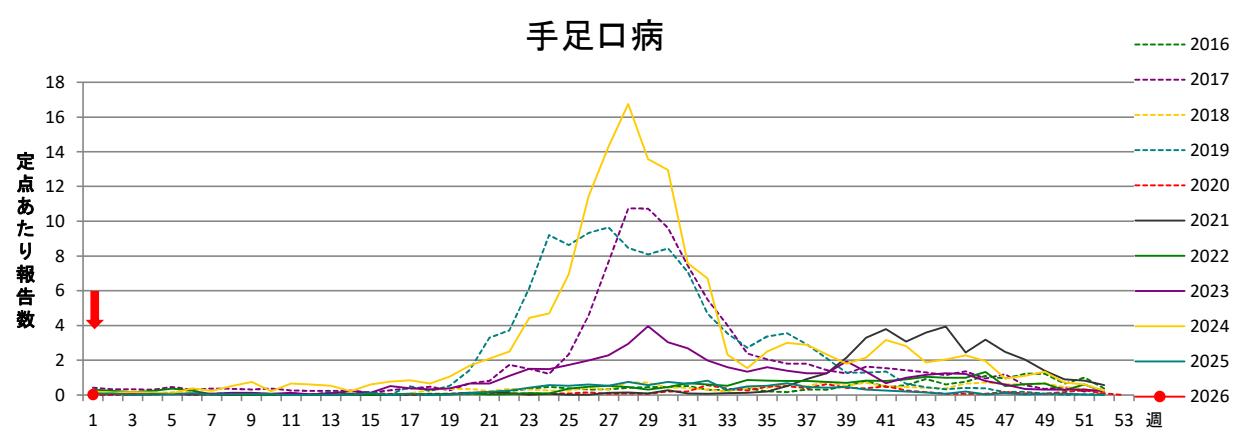
感染性胃腸炎

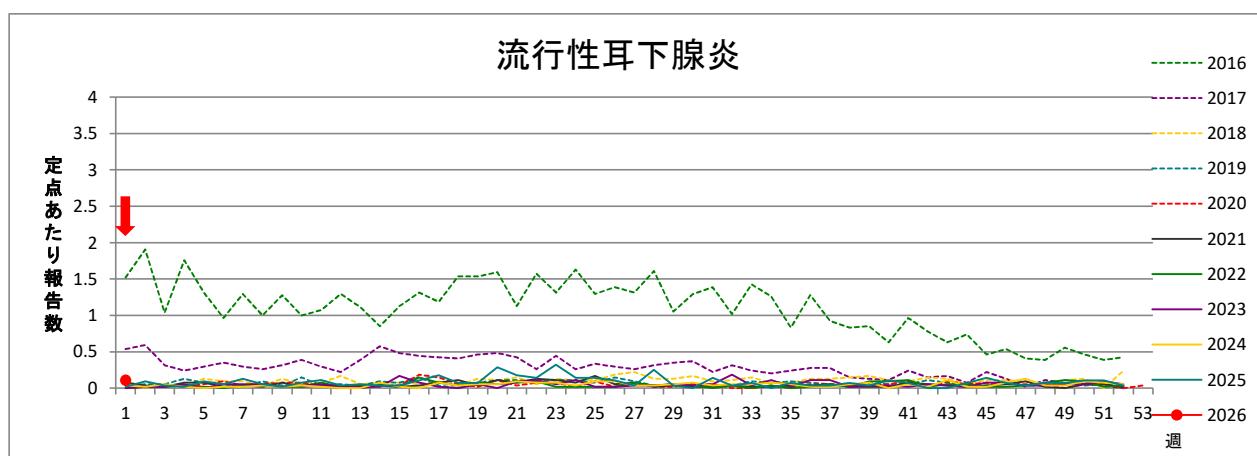
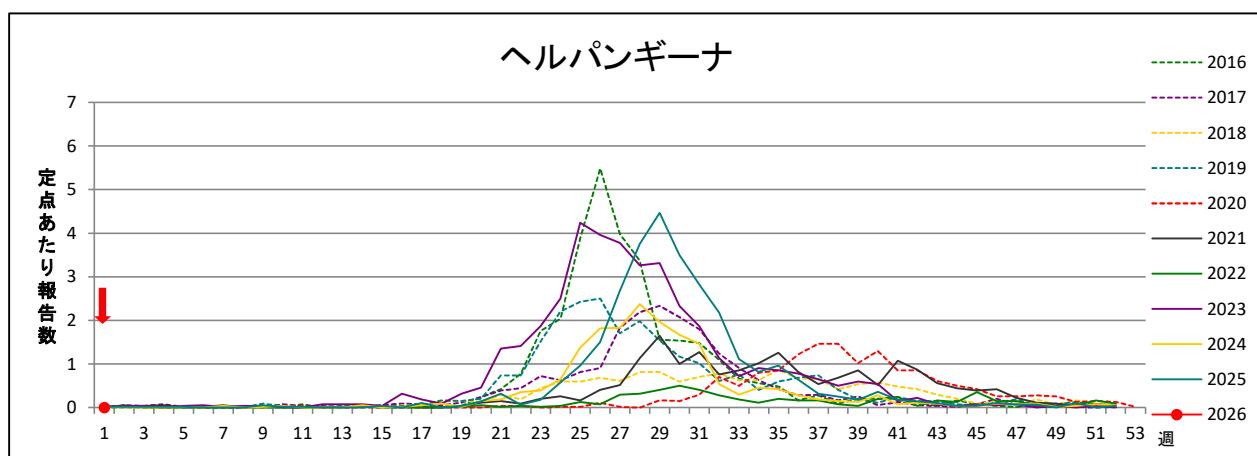
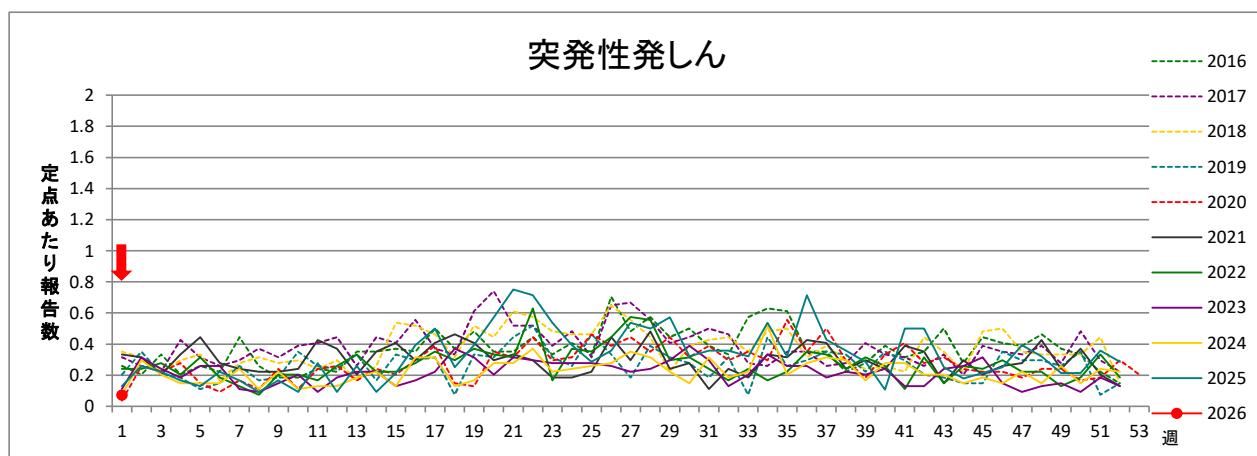
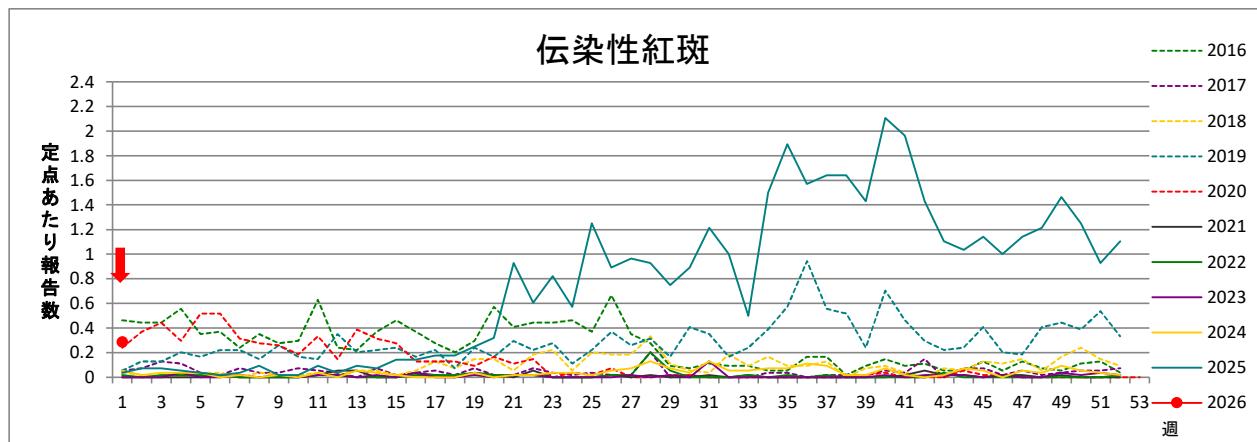


水痘

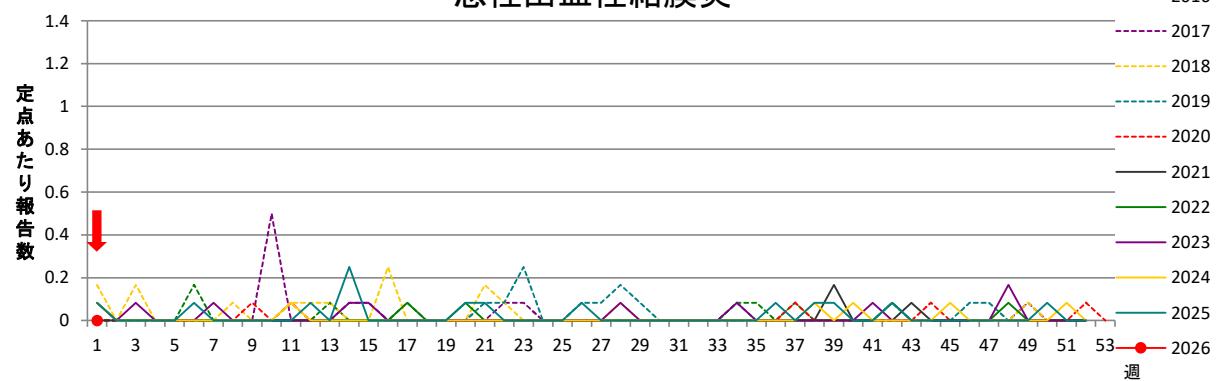


手足口病

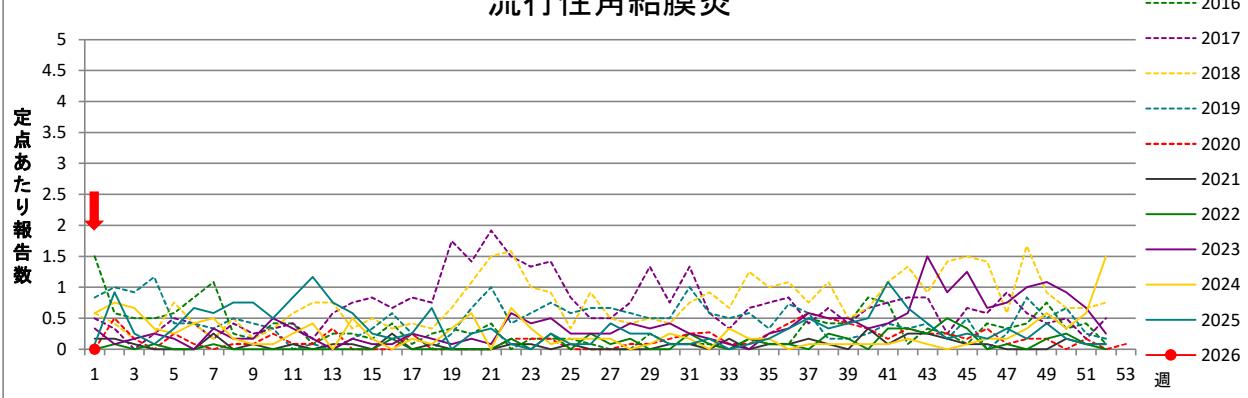




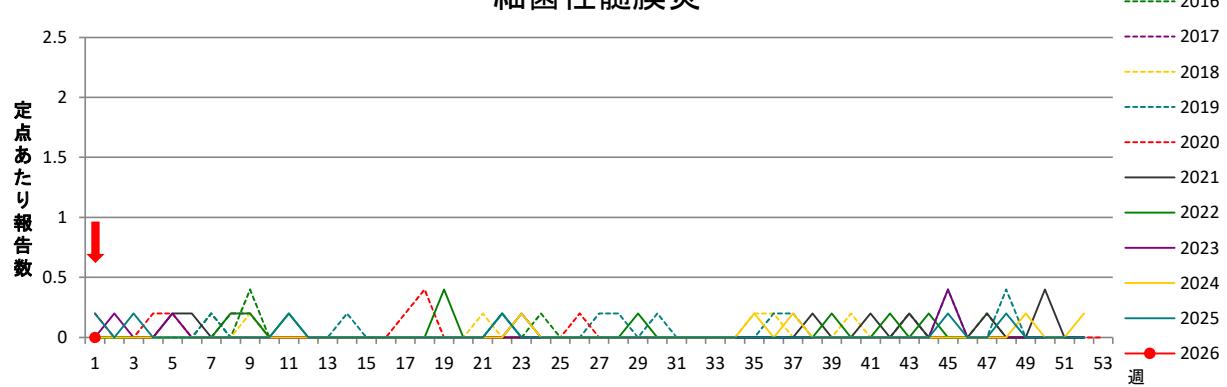
急性出血性結膜炎



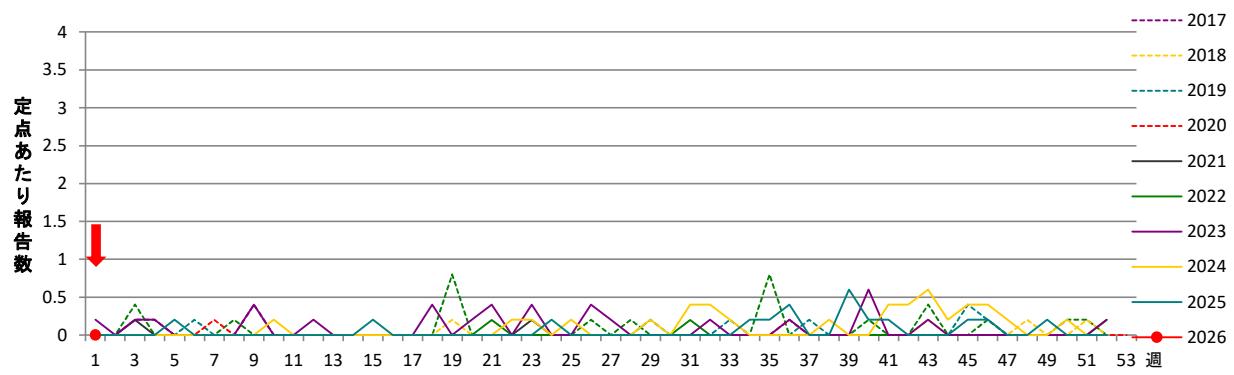
流行性角結膜炎



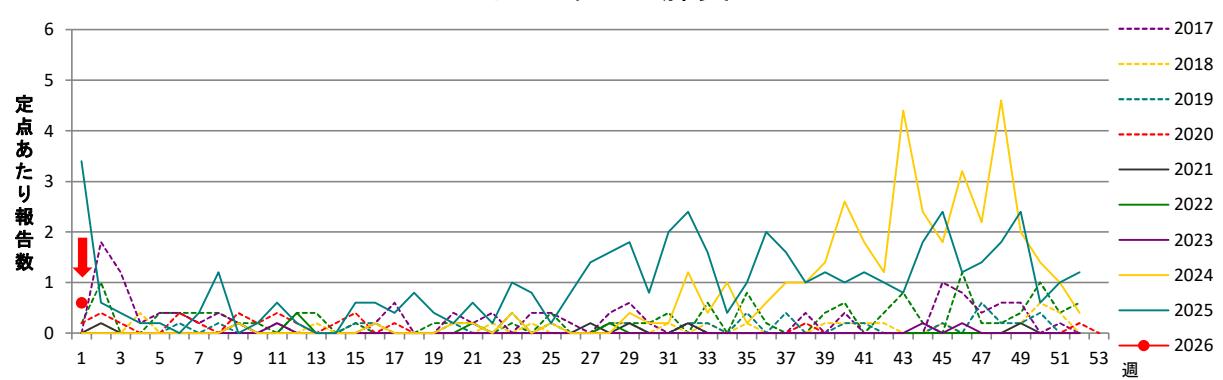
細菌性髄膜炎



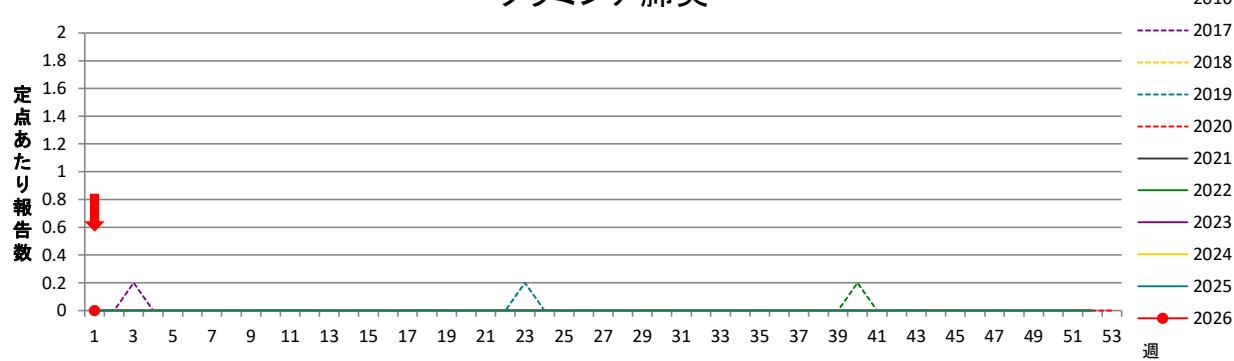
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

